市　立　奈　良　病　院

内科専門研修プログラム

市立奈良病院内科専門研修プログラム

目次

市立奈良病院内科専門医研修プログラム・・・・・・P.1

市立奈良病院内科専門研修施設群・・・・・・・・・・・P.19

専門研修プログラム管理委員会・・・P.75

文中に記載されている資料『専門研修プログラム整備基準』『研修カリキュラム項目表』『研修手帳（疾患群項目表）』『技術・技能評価手帳』は、日本内科学会Web サイトにてご参照ください。

市立奈良病院内科専門研修プログラム

1．市立奈良病院内科専門研修プログラムの理念と使命

新専門医制度で認定される「専門医」とは，それぞれの診療領域における適切な教育を受けて，患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師と定義されています．これに従い，内科専門医制度では，国民から信頼される内科領域の専門医を養成することが求められています．本プログラムでは，奈良県北和医療圏の急性期病院である市立奈良病院を基幹施設として，近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設との協力の下に，基本的臨床能力を持つ内科専門医の育成を行います．

一般的な内科専門医のイメージとしては，地域のかかりつけ医，施設等での健康管理医，さらには病院での総合内科的診療を担う内科医が挙げられるでしょう．しかし新専門医制度における内科専門医には，それのみが求められているわけではありません．それは，新専門医制度における内科専門医は専門医制度の基盤領域となる1階部分であり，その2階部分には消化器内科，循環器内科や血液内科など，多数の subspeciality 専門医が設定されており，内科専門医を取得した後にはそれらの subspeciality 専門医のいずれかを取得することがほぼ自明の選択肢として示されているからです．

求められる内科専門医像は医師一人一人のキャリア形成やライフステージ，あるいは属する医療環境によって単一ではあり得ませんが，想定される医師像は以下のようなものです．

1. 総合内科的視点を持った subspecialist
   病院の内科系診療科で subspeciality を受け持つ中で，総合内科の視点から全人的，臓器横断的に診断，治療を行う基本的診療能力を有する内科系 subspecialist として診療を実践する医師．
2. 病院での総合内科専門医
   病院での内科系診療で内科系の全領域に広い知識と洞察力を持ち，総合的視野から診断，治療を行う能力を備えた，総合内科医療を実践する医師．
3. 内科系救急医療の専門医
   内科系救急，急性疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な，地域での内科系救急医療を実践する医師．
4. 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
   地域において常に患者と接し，内科慢性疾患に対して生活指導まで視野に入れた良質な健康管理，予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践する医師．

絶えざる自己研鑽を通じ，その環境に応じて上に掲げた異なる役割を果たすことのできる，可塑性を持った内科専門医を輩出することが新内科専門医制度に求められる目標であり，本プログラムの使命であると言えます．

本プログラムの特性

市立奈良病院内科専門研修プログラムにおいては，内科専攻医は従来の各専門分野ごとに分かれた縦割りの診療科ではなく，専攻医センターに所属します．そこでまず総合内科的な研修をじっくりと行い，各専門領域の内科系診療科に加えて総合診療科と救急専門医も協力して研修，指導を行います．さらに当院は内科専門医研修システムにおける基幹施設として，多数の連携施設と共に研修施設群を形成し，専攻医の内科専門医研修を主管します．専門医療，救急医療，そして地域医療の観点から様々な特徴と豊富な症例数を持つ連携施設群との協力関係も，当院の研修プログラムの魅力の一つと考えています．そして 3 年間の研修期間の後半では，個々の専攻医の希望に応じて，将来志す subspeciality 専門領域での技能，技術の修得に手を広げた研修をも可能とし，さらに内科専門医取得後の当院の内科系専門診療科への採用にも道を開いています．

本プログラムに求められる成果

本プログラムの修了後には，一つの医療圏に限定されない，全国いずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します．さらに個々の専攻医の希望に応じて，subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療，あるいは大学院などでの研究に携わる準備を整え，対応できる能力を身につけることも本研修プログラムに求められる成果です．

市立奈良病院内科専門研修プログラムでは，従来の各専門領域ごとに細分化された内科研修システムにとらわれず，専攻医一人一人の希望に対応した適切な研修コースの選択を可能とし，経験豊かな指導医と豊富，多彩な症例をもって内科専門医を目指す若手医師の研修を支援します．そして内科一般臨床から専門医療，救急医療，さらには保健生活指導，予防医学をも含めた広い基盤を持つ，優秀な内科専門医の育成を目指します．

2．募集専攻医数【整備基準27】

下記1)～6)により，市立奈良病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は**1学年4名**とします．

1)市立奈良病院内科専攻医は令和7年度現在，3学年併せて名です．

2)内科剖検体数は，令和5年度3件，令和6年度5件です．

表. 市立奈良病院診療科別診療実績

2024年度実績	入院患者実数 （人/年）	外来延患者数 （延人数/年）
消化器内科	799人	20,790人
循環器内科	549人	12,687人
糖尿病内科	0人	5,165人
脳神経内科	163人	9,526人
総合診療科	1,031人	9,572人
呼吸器内科	161人	6,906人
腎臓内科	116人	4,634人
救急受入	2,072人	3,037人

3)学年4名までの専攻医であれば，専攻医2年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた45疾患群，120症例以上の診療経験と29病歴要約の作成は達成可能です.

4)連携施設・特別連携施設には，15施設あり，専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です.

5)専攻医3年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも56疾患群，160症例以上の診療経験は達成可能です.

3. 専門知識・専門技能とは

1)専門知識【整備基準4】[「内科研修カリキュラム項目表」参照]

専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます.

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」，「病態生理」，「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

2)専門技能【整備基準5】[「技術・技能評価手帳」参照]

内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた，医療面接，身体診察，検査結果の解釈，ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します. さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他のSubspecialty専門医へのコンサルテーション能力とが加わります. これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません.

4. 専門知識・専門技能の習得計画

1)到達目標【整備基準 8～10】(P.81 別表 1「市立奈良病院 各年時次到達目標」 参照

主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める全70 疾患群を経験し，200症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修(専攻医)年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します．

○専門研修(専攻医)1年:

・症例:「研修手帳(疾患群項目表)」に定める70疾患群のうち，少なくとも20疾患群，60症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します．以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます．

・専門研修修了に必要な病歴要約を10症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します．

・技能:研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty上級医とともに行うことができます．

・態度:専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty上級医およびメディカルスタッフによる360度評価とを各研修修了毎に行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います．

○専門研修(専攻医)2年:

・症例:「研修手帳(疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，120症例以上の経験をし，日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します．

・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録を終了します．

・技能:研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医，Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます．

・態度:専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを各ローテーション修了後に行って態度の評価を行います．専門研修(専攻医)1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．

○専門研修（専攻医）3年:

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システムにその研修内容を登録します．

・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します．

・既に専門研修２年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボードによる査読を受けます．査読者の評価を受け，形成的により良いものへ改訂します．但し，改訂に値しない内容の場合は，その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します．

・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を自立して行うことができます．

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し，さらなる改善を図ります．

専門研修修了には，すべての病歴要約29症例の受理と，少なくとも70 疾患群中の56 疾患群以上で計160 症例以上の経験を必要とします．日本内科学会専攻医登録評価システムにおける研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します．

市立奈良病院内科施設群専門研修では，「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は3年間（基幹施設2年間＋連携・特別連携施設1年間）とするが，修得が不十分な場合，修得できるまで研修期間を1年単位で延長します．一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にSubspecialty領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始させます．

＊外来症例に関しては，内科専攻に相応しい症例経験として，プロブレムリストの上位に位置して対応が必要となる場合(単なる投薬のみなどは認めない)に限り，登録が可能です．

＊内科研修として相応しい入院症例の経験は DPC における主病名，退院時サマリの主病名，入院時診断名，外来症例でマネジメントに苦慮した症例などにおける病名です．

＊初期研修中の内科研修での経験も内科専門研修で得られなかった貴重な経験が含まれる場合があり，これらを省察し学習することは専門研修においても有益と考えられます．よって，その専攻医が初期研修中に経験した症例のうち，主担当医として適切な医療を行い，専攻医のレベルと同等以上の適切な考察を行っていると指導医が確認できる場合に限り，最低限の

範囲で登録を認めます．これも同様に日本内科学会専攻医登録評価システムを通じて指導医が確認と承認を行います．

2)臨床現場での学習【整備基準13】

内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます．内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します．この過程によって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します．また，自らが経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習によって知識を補足します．これらを通じて，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします．

病棟

・指導医の指導の下，主担当医として入院から退院まで可能な範囲で継時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景，療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します．
・定期的に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．また，プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます．
・ローテーション研修を基本とします．（P11　11.内科専攻医研修（モデル）を参照）
・ただし，経験が不足している場合は特別にローテーション中ではない診療科の症例を直接担当することも可能です．その際は当該科の内科指導医がサポートします．

外来

・3 年間を通じて，外来枠を半日～1 日/週担当します．
・専門研修 1 年目は，原則として総合診療科初診外来を担当します．その場合はスタッフにより適切に指導されます．
・専門研修 2 年目以降は，ローテート中の科の外来を選択することも可能です．

検査

◎市立奈良病院

・市立奈良病院に所属中は，ローテート科の検査以外にも，半日程度／週を希望の検査枠として確保することが可能です。
・例：上部消化管内視鏡，下部消化管内視鏡，心臓カテーテル，気管支鏡、超音波など

◎連携施設

・各施設の基準によります．

時間外業務（当直）

◎市立奈良病院

・原則として，専攻医は週 1 回程度の ER 当直に入ります．
・当直翌日の業務の軽減をはかります．
・総合診療科スタッフによる指導体制があります．

◎連携施設

・基本的に各連携施設の内科当直体制に準じます．
・当直回数は，週 1 回程度を原則とします．
・当直翌日の業務の形式は，当直の仕事量/各施設の方針/専攻医のニーズを元に，専攻医/指導医/プログラム責任者が話し合って事前に取り決めを行います．

時間外業務（OnCall）

・専攻医とローテート科のニーズに合わせて，ローテート開始時に相談・調整することを基本とします．
・その際は，当直の回数とのバランスに十分に配慮します．
・指導医若しくは指導医に準じる立場の責任者とともに診療にあたります．

3） 臨床現場を離れた学習【整備基準14】

現場の患者が急変している場合を除き，以下の会への出席を義務付けます．同時に，現場の指導医には，出席義務を鑑み出席の時間的体力的余裕を与えることを義務付けます．

講習会 （A 市立奈良病院 2024 年度実績 B 市立奈良病院 2025 年度開催予定）

①JMECC（内科救急講習会）：3 年で 1 回（2025 年度開催予定）
・専攻医 1 年目の受講を推奨します．
・原則として，施設内開催を行いますが，必要に応じて県内若しくは地域医療振興協会内の開催にも参加できるように情報提供を行います．
②PEACE（緩和ケア講習会）：3 年で 1 回（A 1 回）
・初期研修時代に受講していない者に限ります．
③院内医療安全講習会：年 2 回以上（A 3 回）
④院内感染対策講習会：年 2 回以上（A 4 回）
⑤院内医療倫理講習会：年 2 回以上
⑥地域連携カンファレンス：開催毎（A 12回）
⑦CPCカンファレンス：年1回以上（A 1回）

学会

①内科系学術集会・企画への参加：年 2 回以上
②症例報告・臨床研究・基礎研究について学会発表若しくは論文発表：2 件以上／3 年

勉強会

①内科合同カンファレンスへの参加（毎回）と症例提示（年 1 回以上）
②初期研修医向けの朝勉強会：企画運営に参加する
③各科開催の勉強会：開催毎

4)自己学習【整備基準15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類， 技術・技能に関する到達レベルをA（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる）， B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，また は判定できる）， C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに， 症例に関する到達レベルをA（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています．（「研修カリキュラム項目表」参照）

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します．

① 内科系学会が行っているセミナーのDVD やオンデマンドの配信

② 日本内科学会雑誌にあるMCQ

③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題　　など

5)研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準41】

日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて，以下をweb ベースで日時を含めて記録します．

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います．

・専攻医による逆評価を入力して記録します．

・全29症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行います．

・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します．

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します．

5．プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準13,14】

市立奈良病内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（P.19「市立奈良病院内科専門研修施設群」参照）．

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である市立奈良病院専攻医センターが把握し，定期的にE-mailなどで専攻医に周知し，出席を促します．

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準6,12,30】

当プログラムでは，3年間の研修を通じて科学的思考，生涯学習の姿勢，研究への関心など学問的姿勢も学んでいきます．専攻医は原則として学術活動に携わる必要があり，学会発表論文発表を通して，研究発表の質と診療能力を向上させます．

チーム医療のスタッフとして，ともに学びあう環境・関係を作りあうことができるようにしていきます．

1. 患者から学ぶという姿勢を基本とします．
2. 知識の更新と技能の向上に向けて，自分のスタイルにあった生涯学習の活用を進めます．
3. 高次医療を経験し，臨床的疑問を抽出し，病態・診断・治療法の臨床研究に協力します．
4. 指導医は専攻医に対して1対1の教育を行います．

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準12】

市立奈良病院専門研修施設群は基幹病院，連携病院，特別連携病院のいずれにおいても，

① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します（必須）．

※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します．

② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います．

③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います．

④ 内科学に通じる研究機関と連携しています．

を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします．

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表を筆頭者2件以上行います．

なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，市立奈良病院専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します．

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．コア・コンピテンシーとは医師としての倫理観・社会性という中核的能力あるいは姿勢のことです．本プログラムでは，下記項目の実践を目標に研修を行います．

① 医師としての健全な倫理観や説明責任はもちろんのこと、患者家族と信頼関係を築き，医療従事者と患者がパートナーシップの基盤に立つことを自覚しながら日常診療にあたることができます．

② 患者のプライバシーに配慮し，社会的・職業的責任と医の倫理に沿って職務を全うできます．

③ 安全管理（医療事故，感染症，廃棄物，放射線など）に関するマネージメントを適切に行うことができます．合わせて積極的な院内外の講習会の受講を推奨する．院内においても感染対策，NST，褥瘡，医療安全，医療倫理等の講習会が定期開催され，参加を義務付けます．

④ 診療にかかわる多くの専門職と協力してチーム医療を実践できます．

⑤ 医療経済・社会保険制度・社会資源を考慮しつつ、適切な医療を実践できます．

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準11,28】

市立奈良病院内科専門研修施設群は奈良県北和医療圏を中心に，奈良県中和医療圏，近隣県の医療圏から構成されています．

基幹施設である市立奈良病院は，奈良県北和医療圏の中心的な役割を担う急性期病院です．コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけることもできます．

連携施設は，その目的と役割から高次機能・専門病院と地域病院の2群に大別します．高次機能・専門病院としては，奈良県立医科大学附属病院，近畿大学医学部奈良病院，奈良県総合医療センター，天理よろづ相談所病院，京都府立医科大学附属病院，大阪市立大学附属病院，市立東大阪医療センターの7病院と連携しており，当院では経験が少ない領域に対しての専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修することが目的です．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を集中的に身につける為にも重要な役割を担います．

地域病院としては，国立病院機構奈良医療センター，奈良県西和医療センター，国保中央病院，済生会奈良病院，おかたに病院，土庫病院，大和郡山病院，橋本市民病院，公立丹南病院の9病院で構成しています．市立奈良病院と異なる環境で，地域の第一線にお

ける中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，当院よりさらに地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修することが可能です．

特別連携施設である県立志摩病院での研修は，市立奈良病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導の責任を担います．市立奈良病院の担当指導医が，特別連携施設病院の上級医とともに，専攻医の研修指導にあたり，指導の質を保ちます．

連携施設，特別連携施設には，市立奈良病院の医療圏外の病院を含みます．この理由は，連携した各施設が地域医療を実践する優れた病院であると同時に，医師不足問題で特に困っている地域であるためです．さらに，当院が地域医療振興協会（JADECOM施設）のひとつであることから，これらの病院関係者と日頃から意思疎通が図れており，高い教育体制を維持しつつ地域医療を経験できるからです．

10．地域医療に関する研修計画【整備基準28,29】

市立奈良病院内科施設群専門研修では，症例をある時点で経験するということだけではなく，主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています．また，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

研修期間中の指導は、連携施設の病院指導医が担います．また、当院の指導医においても専攻医に対し、月1～2回の連絡をメールなどでとり、診療や症例レポートだけでなく、医師としてのキャリアパスを示します。

11．内科専攻医研修（モデル）【整備基準16】

必修　24ヶ月

基幹 12ヶ月

基幹 A（感染制御内科・呼吸器内科・神経内科・総合診療科）	6ヶ月
基幹 B（循環器内科・糖尿病内科・腎臓内科）	3ヶ月
基幹 C（消化器内科）	3ヶ月

地域 12ヶ月以上

地域 A（高次機能・専門）	3–6ヶ月
地域 B（地域基幹）	3ヶ月以上
地域 C（地域医療密着）	3ヶ月以上

選択 12ヶ月以内

＜モデルⅠ： サブスペシャリティ型＞

<table>
<tr><td></td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr>
<tr><td>1年目</td><td colspan="3">基幹C（消化器）</td><td colspan="3">基幹B（循・糖・腎）</td><td colspan="6">基幹A（総合・感染・神経・呼吸器）</td></tr>
<tr><td>2年目</td><td colspan="6">地域B</td><td colspan="3">地域C</td><td colspan="3">地域A</td></tr>
<tr><td>3年目</td><td colspan="12">選択（消化器）</td></tr>
</table>

＜モデルⅡ： サブスペシャリティ型＞

<table>
<tr><td></td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr>
<tr><td>1年目</td><td colspan="3">基幹B（循・糖・腎）</td><td colspan="3">基幹C（消化器）</td><td colspan="6">基幹A（総合・感染・神経・呼吸器）</td></tr>
<tr><td>2年目</td><td colspan="6">地域B</td><td colspan="3">地域A</td><td colspan="3">地域C</td></tr>
<tr><td>3年目</td><td colspan="3">選択（ICU）</td><td colspan="9">選択（循環・糖尿・腎臓）</td></tr>
</table>

＜モデルⅢ：総合内科型＞

<table>
<tr><td></td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr>
<tr><td>1年目</td><td colspan="6">基幹A（総合・感染・神経・呼吸器）</td><td colspan="3">基幹B（循・糖・腎）</td><td colspan="3">基幹C（消化器）</td></tr>
<tr><td>2年目</td><td colspan="3">地域A</td><td colspan="3">地域C</td><td colspan="6">地域B</td></tr>
<tr><td>3年目</td><td colspan="6">選択</td><td colspan="6">選択（総合診療科）</td></tr>
</table>

＜モデルⅣ：サブスペシャリティ　混合タイプ＞

<table>
<tr><td></td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr>
<tr><td>1 年目</td><td colspan="12" rowspan="2">消化器内科　＋　各内科</td></tr>
<tr><td>2 年目</td></tr>
<tr><td>3 年目</td><td colspan="6">地域A</td><td colspan="6">地域C</td></tr>
<tr><td>4 年目</td><td colspan="12">選択（消化器内科）</td></tr>
</table>

※主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70疾患群を経験し，計200症例以上を経験することを目標とし，専攻医1人1人のキャリア形成を行います．

12．専攻医の評価時期と方法【整備基準17,19～22】

形成的評価による成長を重視するべく，日常（Off the job）上のコミュニケーションを中心とした人間的な評価が重要と考えますが，公的な（On the job）評価としては，以下を行います．

<u>担当指導医（メンター）による振り返り：約1-3ヶ月毎</u>

・専攻医1人に1人の担当指導医（メンター）が市立奈良病院内科専門研修プログラム管理委員会により決定されます．

・振り返りには，＜レポート作成と登録状況，講習会受講と登録状況，ローテーション，研修内容と環境，指導医とプログラム評価，メンタルケア，キャリア支援，その他＞の内容を含み，その場で専攻医へフィードバックされます

・これらの内容は，プライバシーに十分に配慮した上で専門研修プログラム管理委員会で報告されます．

<u>360度評価：年2回</u>

・指導医と他職種（看護師長1名，病棟看護師1名，外来看護師1名，理学療法/作業療法/言語聴覚士1名，臨床検査・放射線技師・薬剤師・事務員などから1名）による360度評価をローテション毎に実施します．

・評価内容は，社会人としての適性，医師としての適性，協調性などの項目を含みます．

・評価は無記名方式で，専攻医センターが直接，または，各研修施設の研修委員会に委託して行います．

・その回答は専攻医センターが取りまとめ，日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．

・その結果は，センター→担当指導医→専攻医へと形成的にフィードバックされます．

自己評価:年2回

・年に2回，専攻医自身の自己評価を行います．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システムを通じて集計され，振り返りの時にメンターによって専攻医に形成的評価としてフィードバックされます．

市立奈良病院専攻医センターによる把握・追跡・促進:年2回程度

・プログラム開始時に，各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システムの研修手帳Web版を基にカテゴリー別の充足状況を確認します．
・6か月ごとに研修手帳Web版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による研修手帳Web版への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します．
・6か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します．
・6か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します．

研修委員会:年4回

研修委員会では，指導医間で専攻医の形成的評価を行い，可及的速やかに現場にフィードバックを行います．（各科指導医1名～2名の参加）

プログラム管理委員会:年度末

プログラム管理委員会では，基幹施設と連携施設の指導医が共同して3-4年目の専攻医の到達度確認と進級の認証を行います．5年目の専攻医に対して，プログラム修了の総括的評価※を行います．

※プログラム修了判定基準【整備基準53】

1）担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて研修内容を評価し，以下ⅰ)～vi)の修了を確認します．

i）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70 疾患群を経験し，計200 症例以上（外来症例は20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします．その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システムに登録します．修了認定には，主担当医として通算で最低56 疾患群以上の経験と計160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の1 割まで含むことができます）を経験し，登録済する必要があります．（P.81 別表1 各年次到達目標 参照）．

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理（アクセプト）

iii)所定の 2 編の学会発表または論文発表

iv) JMECC 受講

v) プログラムで定める講習会受講

vi) 日本内科学会専攻医登録評価システムを用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性

2)市立奈良病院内科専門研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約1か月前に市立奈良病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います.

プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，日本内科学会専攻医登録評価システムを用います.

なお，「市立奈良病院内科専攻研修医マニュアル」【整備基準 44】(P.72)と「市立奈良病院内科専門研修指導医マニュアル」【整備基準 45】(P.78)を別に示します.

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準34,35,37～39】

（P.71「市立奈良内科専門研修管理員会」参照）

1)市立奈良病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i) 専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります.

専門研修プログラム管理委員会は，統括責任者，プログラム責任者，事務担当者，内科 Subspecialty　分野の指導医および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させます（P.71 市立奈良病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）.

ii) 市立奈良病院専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します．委員長 1 名（指導医）は，基幹施設との連携のもと，活動するとともに，専攻医に関する情報を定期的に共有するために，年 4 回開催する市立奈良病院専門研修委員会の委員として出席します.

基幹施設，連携施設ともに，年度末に開催される，市立奈良病院プログラム管理委員会に以下の報告を行います。

①前年度の診療実績

a)病院病床数，b)内科病床数，c)内科診療科数，d)1か月あたり内科外来患者数，e)1 か月あたり内科入院患者数，f)剖検数

②専門研修指導医数および専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績，b)今年度の指導医数/総合内科専門医数，c)今年

度の専攻医数, d)次年度の専攻医受け入れ可能人数.

③前年度の学術活動

a)学会発表, b)論文発表

④施設状況

a)施設区分, b)指導可能領域, c)内科カンファレンス, d)他科との合同カンファレンス, e)抄読会, f)机, g)図書館, h)文献検索システム, i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会, j)JMECC の開催.

⑤Subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数, 日本循環器学会循環器専門医数,
日本内分泌学会専門医数, 日本糖尿病学会専門医数, 日本腎臓病学会専門医数,
日本呼吸器学会呼吸器専門医数, 日本血液学会血液専門医数,
日本神経学会神経内科専門医数, 日本アレルギー学会専門医(内科)数, 日本リウマチ学会専門医数, 日本感染症学会専門医数, 日本救急医学会救急科専門医数

14. プログラムとしての指導者研修(FD)の計画【整備基準18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します.
厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します.
指導者研修(FD)の実施記録として, 日本内科学会専攻医登録評価システムを用います.
プログラム管理委員会は, この実施記録, および, 専攻医への聞き取りにて指導医を評価し, 指導医にフィードバックします.

15. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)【整備基準40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします.
専攻医は, 基幹施設である市立奈良病院と連携施設もしくは特別連携施設の就業環境に基づき, 就業します(P.19「市立奈良病院内科専門研修施設群」参照).
基幹施設および連携施設の研修責任者とプログラム統括責任者は専攻医の労働環境改善と安全の保持に努めます.
勤務時間, 休日, 当直, 給与などの勤務条件については, 労働基準法を厳守し, 各施設の労使協定に従います.

基幹施設である市立奈良病院の整備状況:

・研修に必要な図書室とインターネット環境があります.
・常勤医師として労務環境が保障されています.
・メンタルストレス、パワーハラスメントに適切に対処する院内規程が定められており, 専攻医

の就業環境を守ります.
・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています.
・敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
専門研修施設群の各研修施設の状況については，P.19「市立奈良病院内科専門施設群」を参照.
また，総括的評価を行う際，専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，その内容は市立奈良病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが，そこには労働時間，当直回数，給与など，労働条件についての内容が含まれ，適切に改善を図ります.

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準48～51】

基本的に，PDCA（計画−行動−評価−改善）の手技を用いて，絶え間ないプログラム改善を目指し，以下の評価を行います.

専攻医による評価：年数回
・年数回，専攻医が当プログラムや指導医，基幹施設，連携施設に対する評価を日本内科学会専攻医登録評価システムに基づき行います.
・集計結果は担当指導医，施設の研修委員会，およびプログラム管理委員会が閲覧します.
・集計結果に基づき，市立奈良病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます.

指導医による評価：年数回
年数回の研修委員会にて，継続的に指導医からのプログラム評価を適宜受けます．その評価に基づき，年1回のプログラム管理委員会で本研修プログラムの改良を行います.

日本専門医機構からの評価：不定期
・研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします.
・本研修プログラムに対して日本専門医機構からサイトビジット（現地調査）が要請された場合は，遅滞なく受け入れ，その評価にもとづいてプログラム管理委員会で本研修プログラムの改良を行います.
また，当プログラムは学習者中心の教育を目指しており，専攻医の声には，時期を問わず，できる限りその都度に耳を傾けることを重視します.

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準52】

本プログラム管理委員会は，websiteでの公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は，市立奈良病院専攻医センターのwebsiteの市立奈良病院医師募集要項（市立奈良病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します．書類選考および面接を行い，市立奈良病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し，本人に文書で通知します．

(問い合わせ先)市立奈良病院　HP: http://www.nara-jadecom.jp

総務課　松本　mail: j-matsumoto@nara-jadecom.jp

市立奈良病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システムにて登録を行います．

18. 内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には，適切に日本内科学会専攻医登録評価システムを用いて市立奈良病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，市立奈良病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから市立奈良病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です．

他の領域から市立奈良病院内科専門研修プログラムに移行する場合，他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめる場合，あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに市立奈良病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会専攻医登録評価システムへの登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たしており，かつ休職期間が6ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1日8時間，週5日を基本単位とします）を行なうことによって，研修実績に加算します．

留学期間は，原則として研修期間として認めません．

市立奈良病院内科専門研修施設群

研修期間:3 年間(基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間)

表 1.各研修施設の概要

	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医
市立奈良病院	350 床	166	11	23 人	19 人

連携施設(奈良県内)

奈良県立医科大学附属病院	992 床	229 床	10	116 人	57 人
天理よろづ相談所病院	715 床	-床	7	38 人	33 人
近畿大学医学部奈良病院	518 床	159 床	9	15 人	13 人
奈良県総合医療センター	490 床	192 床	10	25 人	22 人
国立病院機構奈良医療センター	310 床	160 床	6	3 人	5 人
奈良県西和医療センター	300 床	145 床	11	13 人	14 人
大和郡山病院	235 床	105 床	4	1 人	1 人
国保中央病院	214 床	74 床	1	3 人	5 人
土庫病院	199 床	126 床	6	2 人	2 人
済生会奈良病院	194 床	194 床	3	5 人	4 人
おかたに病院	150 床	150 床	1	1 人	2 人

連携施設(奈良県外)

京都府立医科大学附属病院	1065 床	173 床	10	53 人	81 人
大阪公立大学附属病院	965 床	234 床	12	93 人	75 人
市立東大阪医療センター	520 床	157 床	10	17 人	12 人
橋本市民病院	300 床	96 床	5	1 人	6 人
公立丹南病院	179 床	45 床	3	6 人	4 人
松下記念病生院	323 床	-	7	23 人	19 人
住友病院	496 床	238 床	9	38 人	31 人

特別連携施設

三重県立志摩病院	336 床	96 床	3	3 人	1 人

表 2. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の可能性

	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
市立奈良病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
連携施設（奈良県内）													
奈良県立医科大学附属病院	△	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○
天理よろづ相談所病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
近畿大学奈良病院	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	△	○
奈良県総合医療センター	△	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
国立病院機構奈良医療センター	○	△	△	△	△	△	○	△	○	○	△	○	△
奈良県西和医療センター	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○
大和郡山病院	○	○	○	−	○	−	○	−	−	−	−	−	○
国保中央病院	−	○	−	−	○	−	−	−	−	○	−	−	○
土庫病院	○	○	○	○	○	○	○	−	△	−	−	△	○
済生会奈良病院	○	○	○	−	−	−	○	−	−	−	−	−	○
おかたに病院	○	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○
連携施設（奈良県外）													
京都府立医科大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪公立大学医学部付属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立東大阪医療センター	○	○	○	△	○	○	△	○	○	△	○	○	○
橋本市民病院	○	○	○	−	○	−	○	−	−	−	−	−	○
公立丹南病院	○	○	○	△	△	△	○	△	○	△	△	△	○
松下記念病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
住友病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
特別連携施設													
三重県立志摩病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	−	○	−

専門研修施設群の構成要件【整備基準25】

市立奈良病院内科専門研修施設群は奈良県北和医療圏を中心に奈良県中和医療圏，隣接の医療圏から構成されています．これらの施設は，市立奈良病院の医療圏を中心に，県内および県外の病院を含みます．県外の病院は，今までの当院の連携実績を勘案し，また，奈良県に近隣する医療圏も配慮した施設連携としています．

基幹施設である市立奈良病院は，奈良県北和医療圏の中心的な役割を担う急性期病院です．コモンディジーズの経験はもちろん，超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけることもできます．

連携施設は，その目的と役割から高次機能・専門病院と地域病院の2群に大別します．高次機能・専門病院としては，奈良県立医科大学附属病院，近畿大学医学部奈良病院，奈良県総合医療センター，天理よろづ相談所病院，京都府立医科大学附属病院，大阪市立大学附属病院，市立東大阪医療センターの7病院と連携しており，当院では経験が少ない領域に対しての専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修することが目的です．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を集中的に身につける為にも重要な役割を担います．

地域病院としては，国立病院機構奈良医療センター，奈良県西和医療センター，国保中央病院，済生会奈良病院，おかたに病院，土庫病院，大和郡山病院，橋本市民病院，公立丹南病院の9病院で構成しています．市立奈良病院と異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します．また，当院よりさらに地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療を研修することが可能です．

特別連携施設である県立志摩病院での研修は，市立奈良病院のプログラム管理委員会と研修委員会とが管理と指導の責任を担います．市立奈良病院の担当指導医が，特別連携施設病院の上級医とともに，専攻医の研修指導にあたり，指導の質を保ちます．

連携施設，特別連携施設には，市立奈良病院の医療圏外の病院を含みます．この理由は，連携した各施設が地域医療を実践する優れた病院であると同時に，医師不足問題で特に困っている地域であるためです．さらに，当院が地域医療振興協会（JADECOM施設）のひとつであることから，これらの病院関係者と日頃から意思疎通が図れており，高い教育体制を維持しつつ地域医療を経験できるからです．

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

・専攻医1年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修委員会において研修施設を調整し決定します．
・原則として，専攻医2年目の1年間に連携施設・特別連携施設で研修をします．

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準26】

市立奈良病院内科専門研修施設群研修施設は奈良県北和医療圏，および，奈良県中和医療圏，近隣医療圏から構成されています．連携施設は、奈良県内を中心に、今までの当院の連携実績および医療圏を勘案し、県外の施設とも連携をとっております。

奈良県北和医療圏，奈良県中和医療圏は電車や自動車などで1時間程度圏内にあります．近隣医療圏である京都，三重，和歌山の病院として京都府立医科大学附属病院，県立志摩病院，公立丹南病院，橋本市民病院も連携施設に含みます．三重県立志摩病院は，これまでも医師不足のことがあり，地域医療を崩壊させない当院から医師協力を行った実績があります．また，三重県立志摩病院，公立丹南病院は，当院と同一の地域医療振興協会の施設であるため長年にわたり医師同士の交流もあり，かつ，地域の唯一の病院のため，より地域を支える地域医療を経験できます．

京都府立医科大学付属病院は，以前から当院内科への医師協力があり，長年の連携関係にあります．また，京都府立医科大学付属病院では大学病院である特性を生かし，まれな疾患や高度医療を要する症例を経験することが可能です．

橋本市民病院は奈良県五條市に隣接するため奈良県の同地域の医療も担っており，奈良の地域医療を支えるうえで連携を要する病院です．

1）専門研修基幹施設

市立奈良病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所，病児保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 23 名在籍しています. ･内科専攻医管理委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績医療安全 3 回，感染対策 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます. ・内科研修に必要な剖検を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています. ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 12 回）しています.
指導責任者	髙橋　信行 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は奈良市の中核病院として，地域医療の充実や人材の育成に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは，近隣医療圏の連携施設や特別連携施設と協力して，地域医療，救急医療，専門医療の診療知識や技術を習得すること，また医療安全を重視し，患者本位の医療サービスを提供することを目指し，質の高い内科医を育成します.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医 28 名 日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本循環器学会循環器専門医 6 名 日本救急医学会救急科専門 5 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名 日本プライマリケア連合学会指導医 3 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数 2024 年	外来患者 15,759.9 人（1 ヶ月平均）、入院患者 8,518.7 人（1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療を経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本総合診療医学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設

週間スケジュール

【総合診療科・呼吸器内科・感染制御内科】

<table>
<tr><th></th><th>～8:00</th><th>8:00～8:30</th><th>8:30～9:00</th><th>9:00～10:00</th><th colspan="2">10:00～12:30</th><th colspan="2">12:30～13:30</th><th colspan="2">13:30～16:30</th><th>16:30～17:00</th><th colspan="2">After5</th></tr>
<tr><td>月</td><td rowspan="5">情報収集</td><td rowspan="5">新患カンファ
(ICU or ERへ集合)</td><td>チャート回診
(呼吸器内科と合同)</td><td>回診(プレゼン)</td><td colspan="2" rowspan="4">病棟業務</td><td colspan="2">ランチョン勉強会</td><td colspan="2">病棟多職種カンファ
(14:00～16:00)</td><td rowspan="5">カンファ
(ERへ集合)
(sign out/5min-s)</td><td rowspan="5">ICU申し送り
(17:30担当医)</td><td>①医局会
(17:00～)
①Dr.Car
(18:00～)
②天理カンファ
(隔月18:30～)</td></tr>
<tr><td>火</td><td>チャート回診</td><td>回診(身体診察)</td><td rowspan="4">ランチョン勉強会</td><td>ER</td><td>ICT
(13:30～
14:00)</td><td>病棟業務</td><td>③大和高原カンファ
(18:30～)</td></tr>
<tr><td>水</td><td>チャート回診
(呼吸器内科と合同)</td><td>呼吸器内科カンファ</td><td>初期研修医</td><td colspan="2" rowspan="2">病棟業務</td><td>④救急症例検討会
(18:00)</td></tr>
<tr><td>木</td><td>チャート回診</td><td>回診
(総合診療科部長)</td><td>専攻医</td><td>①③総診ミーティング(17:30～)</td></tr>
<tr><td>金</td><td>チャート回診
(呼吸器内科と合同)</td><td>感染カンファ</td><td>ICT
(11:00
～
11:30)</td><td>病棟業務</td><td>スタッフ</td><td colspan="2">気管支鏡</td><td>①京都GIM
②Specialist
③診断学
(全て18:00～)</td></tr>
<tr><td>土</td><td></td><td></td><td>申し送り
(ICU or ER 集合)</td><td>病棟業務</td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

【消化器内科】

	午前	午後	
月	上部内視鏡検査	肝生検および病棟	18:00～　外科合同カンファレンス 18:30～　消化器内科カンファレンス
火	腹部エコー検査	肝生検および病棟	
水	7:30～　内視鏡カンファレンス、上部内視鏡検査	下部内視鏡検査、治療内視鏡	第3週　18:00～内科カンファレンス
木	8:00～　肝生検カンファレンス、腹部エコー検査、 10:30頃～　病棟回診	下部内視鏡検査、治療内視鏡	
金	消化器内科外来	下部内視鏡検査	
土	病棟		

備考　＊一例として大枠のみを示しており、詳細は変更があり得る。
＊上記以外にも検査、治療が常時並行しているので、随時確認すること。
＊消化器関連の学会および研究会に参加（発表）する。
＊時間内外の緊急処置には原則参加する。

【循環器内科・糖尿病内科・腎臓内科】

	午前	午後	
月	心臓カテーテル検査・手術 腎生検	心臓カテーテル検査・手術	
火	糖尿病内科外来	循環器内科病棟 腎臓内科外来	循環器内科・糖尿病内科カンファレンス
水	心臓カテーテル検査・手術	心臓カテーテル検査・手術 腎臓内科カンファレンス	
木	糖尿病カンファレンス カテーテルアブレーション	カテーテルアブレーション 腹膜透析外来	
金	心エコー検査 CCU	CCU	
土			

【脳神経内科】

	午前	午後	
月	脳卒中ホットライン症例検討会 病棟回診	病棟	
火	外来および病棟	脳血管造影検査、多職種合同嚥下回診	他の医療機関との合同神経内科症例検討会（第1火曜日）、リハビリカンファレンス（偶数週）
水	外来および病棟	病棟	頚動脈エコー検査、経食道エコー検査
木	外来および病棟	脳血管造影検査	脳血管造影検査症例検討会
金	外来および病棟	電気生理学的検査	
土	外来および病棟		

2)専門研修連携施設紹介

奈良県立医科大学

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書館とインターネット環境があります. ･奈良県立医科大学附属病院の医員として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります. ･ハラスメントに係る規程が整備され, 必要に応じて委員会が開催されます. ･女性専攻医が安心して勤務できるように更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ･病院の至近距離(50m)に院内保育所があり，病児保育の体制も整っています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 116 名在籍しています。（按分前）（下記参照） ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策の委員会・講習会を定期的に開催（2024 年度実績：倫理セミナー（12 回実施）、医療安全研修会（e-leaning で 8 項目実施）、感染対策研修会（e-leaning で 6 種類実施））し、専攻医に受講を

	義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ･臨床医として優秀かつ教育実績のある医師を国内外から広く招聘し、専攻医の臨床能力向上に努めています。（Dr. N プロジェクト）
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、内分泌、アレルギーを除く、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。(連携施設からの按分症例数を含めると充分です)
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会或いは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2023 年度実績 19 演題）をしています。
指導責任者	吉治　仁志 【内科専攻医へのメッセージ】 　奈良県立医科大学附属病院は多くの協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて、質の高い内科専門医育成を目指しています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、内科専門医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 116 名，日本内科学会総合内科専門医 57 名 日本消化器病学会専門医 29 名，日本肝臓学会肝臓専門医 26 名， 日本循環器学会専門医 18 名，日本内分泌学会専門医 9 名， 日本腎臓病学会専門医 16 名，日本糖尿病学会専門医 12 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 16 名，日本血液学会血液専門医 9 名， 日本神経学会神経内科専門医 19 名，日本アレルギー学会専門医(内科) 2 名， 日本リウマチ学会専門医 4 名，日本感染症学会専門医 8 名， 日本老年医学会専門医 5 名，日本消化器内視鏡学会専門医 23 名， 臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名　ほか
外来・入院患者数	一日平均外来患者数 2,377 名(年間延べ外来患者数は 577,568 名） 年間新入院患者 18,771 名(年間延べ入院患者数は 258,045 名）
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除き，連携施設群の症例を合わせて，研修手帳(疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に

技能	基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本動脈硬化学会専門医認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈心電学会認定認定不整脈専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 TAVR（経カテーテル的大動脈弁置換術）実施施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定専門医施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器がん検診学会認定医制度指導施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本リハビリテーション医学会専門研修プログラム基幹施設 日本神経病理学会認定施設 日本認知症学会教育施設 日本頭痛学会認定教育施設 総合診療専門研修プログラム基幹施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定総合医・家庭医研修プログラム研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設

	日本感染症学会認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定施設 日本東洋医学会研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設　など

週間スケジュール

内科研修

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td colspan="5">モーニング・カンファレンス</td><td rowspan="2">月に1回当直</td><td rowspan="2">月に1回当直</td></tr>
<tr><td>外来研修</td><td>病棟研修</td><td>病棟研修</td><td>心臓カテーテル
研修</td><td>外来研修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td>病棟研修</td><td>心エコー研修</td><td>部長回診</td><td rowspan="2">病棟研修</td><td rowspan="2">心エコー・
トレッドミル
研修</td><td rowspan="3">月に1回当直</td><td rowspan="3">月に1回当直</td></tr>
<tr><td>Journal club</td><td>心臓カテーテル
カンファレンス</td><td>症例
カンファレンス</td></tr>
<tr><td colspan="5">週に1回当直</td></tr>
</table>

天理よろづ相談所病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･内科専攻医もしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理室)があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように, 更衣室, シャワー室, 当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり, 病児保育, 病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 38 名在籍しています(下記). ･内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績 医療安全・感染対策 E-learning 開催)します。 ･CPC を定期的に開催(2024 年度実績 5 回)します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野を定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表(2019 年度実績 10 演題)をしています.
指導責任者	羽白 高 【内科専攻医へのメッセージ】 来る高齢化社会では患者の 1 つの病気をただ治すといった治療モデルでは難しく、多疾患の同時並行的な治療を求められる。またキュアからケアへの移行、患者との死生観の共有が必要と考えられる。天理よろづ相談所病院は昭和 51 年よりレジデント制度を開始し、昭和 53 年よりシニアレジデントの内科ローテイトコースを行っている。また奈良県東和医療圏の急性期病院として役割を担っている。これらの経験を活かし、専門的な臓器別診療だけではなく、内科全般や更に医療周辺の社会機構にわたる幅広い知識や経験を基礎にバランスよく患者を診療する能力をもった内科医を養成したいと考えている。
指導医数	日本内科学会指導医 38 名, 日本内科学会総合内科専門医 33 名

（常勤医）	日本消化器病学会消化器専門医 6 名，日本循環器学会循環器専門医 10 名，日本内分泌学会専門医 5 名，日本糖尿病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名，日本血液学会血液専門医 4 名，日本神経学会神経内科専門医 3 名，日本アレルギー学会専門医（内科）3 名，日本リウマチ学会専門医 2 名，日本感染症学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 約 1,800 名（1 日平均）入院患者 約 500 名（1 日平均延）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本感染症学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設（胸部） ステントグラフト実施施設（腹部） 日本内分泌学会内分泌学会認定教育施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌・甲状腺外科学会専門医制度認定施設　など

週間スケジュール

	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
月		症例 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ ①②												
火		症例 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ ①②			呼吸器内科回診 カンファレンス ①②							ＰＣ（年７回） ＲＣＢ (レジデントカンファレンス) ①②		
水		総合内科回診 カンファレンス ①②							血液内科 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ ②				呼内ﾚｸﾁｬｰ（不定期）	
木		症例 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ ①②		9:45～ 神経内科 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ ①②				消化器内科 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ ①②					TENIS (不定期)	
金		症例 ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ ①②		循環器内科 カンファレンス ①②			内分泌内科回診 カンファレンス ①							

（その他、各科毎にカンファレンスを自科内で夕方などに行っている）

近畿大学医学部奈良病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保証されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ･ハラスメント委員会が当院に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･近隣に院内保育園があり、医師の利用が可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 14 名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 2 回、医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2015 年度実績 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 1 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を含め，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 1 演題）をしています. 今後内科研修基幹病院として、年間 3 演題以上の発表をめざします.
指導責任者	花本 仁 【内科専攻医へのメッセージ】 近畿大学医学部奈良病院は、近畿大学医学部附属病院、京都大学医学部附属病院や奈良県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています. 本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内

	科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです．単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです．また、奈良病院の医師の出身大学も様々であり、親しみやすい環境が提供でき、各内科系診療科とのコンサルトも容易であり、充実した研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定内科医 29 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名，日本循環器学会循環器専門医 7 名， 日本内分泌学会専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名， 日本腎臓病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名， 日本血液学会血液専門医 4 名，日本神経学会神経内科専門医 1 名， 日本アレルギー学会専門医（内科）3 名， 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名， 日本感染症学会専門医 1 名，日本肝臓学会専門医 2 名，日本輸血学会専門医1名， 日本心血管インターベンション治療学会専門医1名，日本透析医学会専門医1名， 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医1名，日本超音波学会専門医1名， 日本心身医学会内科専門医1名，日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医1名， 日本老年医学会専門医1名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医2名， 日本精神神経学会精神科医専門医1名
外来・入院患者数	外来患者 913.8 名（1 ヶ月平均） 入院患者 11,751 名（1 ヶ月平均延数） ※ 平成 27 年 12 月実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，54 疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

	日本アレルギー学会認定教育施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設 日本認定臨床腫瘍学会認定研修施設 非血縁間骨髄採取・移植認定施設 日本放射線腫瘍学会認定施設 日本感染症学会研修施設 呼吸療法専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本透析医学会専門医認定施設 不整脈専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 小児科専門医研修施設 小児循環器専門医修練施設 日本腎臓学会研修認定施設 など

週間スケジュール

臨床研修週間予定表　《血液内科》

	午前	午後	
月	外来および病棟	病棟	
火	外来および病棟	病棟	
水	外来および病棟	病棟	回診、カンファレンス
木	外来および病棟	病棟	
金	外来および病棟	病棟	指導医とのWeekly summary discussion
土	病棟、 抄読会、標本検討カンファレンス CPC、モーニングカンファレンス		

CVカテーテル挿入、骨髄検査、腰椎穿刺などは外来、病棟、中央検査部にて学習・施行する。
日当直業務は月1-2回
カラー部分は特に教育的要素が含まれています。

臨床研修週間予定表　《腎臓内科》

	午前	午後	
月	外来、病棟、血液透析	外来、病棟、血液透析、腎生検	腎生検病理カンファレンス
火	外来、病棟、血液透析	外来、病棟、 血液透析 腹膜透析外来	
水	外来、病棟、血液透析、シャントエコー	外来、病棟、 血液透析	回診、カンファレンス、 抄読会、臨床研究検討会
木	外来、病棟、血液透析	外来、病棟、血液透析、腹部エコー	透析カンファレンス（Ns.,MEと合同）
金	外来、病棟、血液透析、腹膜機能検査(PET)	外来、病棟、 血液透析	指導医とのWeekly summary discussion
土	外来、病棟、血液透析 CPC、モーニングカンファレンス	病棟、血液透析	

備考　腹部、シャント血管超音波検査は症例に応じて適宜、外来、病棟、中央検査部にて学習・施行する。
内シャント手術、腹膜透析チューブ挿入手術も該当症例がある場合、手術に参加する。
日当直業務は平日週1回、週末月2回
カラー部分は特に教育的要素が含まれています。

奈良県総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･有期専門職員として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署があり、月に1度メンタルヘルス相談会が開催されています。 ･ハラスメント防止委員会が奈良県総合医療センターに整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 25 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：前田副院長）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修医支援室があります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会（ICT 勉強会）を定期的に開催（2024 年度実績：医療安全講習会 12 回，感染対策講習会（ICT 勉強会）12 回,呼吸サポートワーキング勉強会 3 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（基幹施設：奈良県総合医療センター病診・病病連携医療講座：12 回開催. 集学的がん治療勉強会：3 回開催,緩和ケア勉強会 2 回）を定期的に開催し，専攻医　に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修支援室が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域全領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）.

	·専門研修に必要な剖検(2024 年度 9 体 2023 年度 9 体、2022 年度 3 体、2021 年度 7 体、2020 年度 8 体、2019 年度 12 体, 2018 年度実績 15 体)を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室, 写真室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し, 定期的に開催(2024 年度実績 22 回)しています. ·治験管理室を設置し, 定期的に受託研究審査会を開催(2024 年度実績 11 回) しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	前田　光一 【内科専攻医へのメッセージ】 奈良県総合医療センターは, 奈良県北和医療圏の中心的な急性期病院であり, 近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い, 必要に応じた可塑性のある, 地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として, 入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に, 診断・治療の流れを通じて, 社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 16 名, 日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名, 日本肝臓学会肝臓専門医 6 名 日本内分泌学会専門医 2 名, 日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 1 名, 日本腎臓病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名, 日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 6 名, 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 20 名, ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,305 名(1 日平均) 入院患者 428 名(1 日平均) ※2024 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設

	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設

週間スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜日</th><th>日曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">午前</td><td colspan="5">ER・内科救急カンファレンス</td><td colspan="2" rowspan="7">担当患者の病態に応じた診療/オンコール/日当直/講習会・学会参加など</td></tr>
<tr><td>入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療/救命救急センターオンコール</td><td>入院患者診療</td><td rowspan="2">入院患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td>内科外来診療（総合内科初診）</td><td>内科外来診療〈各診療科（Subspecialty〉</td><td>内科検査内科検査〈各診療科（Subspecialty)〉</td></tr>
<tr><td rowspan="4">午後</td><td>入院患者診療</td><td>内科検査内科検査〈各診療科（Subspecialty)〉</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療/救命救急センターオンコール</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td rowspan="2">部長回診
内科入院患者カンファレンス〈各診療科（Subspecialty)〉</td><td>入院患者診療</td><td>抄読会</td><td rowspan="2">内科入院患者カンファレンス〈各診療科（Subspecialty)〉</td><td rowspan="2">救命救急センター/内科外来診療</td></tr>
<tr><td>地域参加型カンファレンス、M・Mカンファレンスなど</td><td>講習会・CPCなど</td></tr>
<tr><td colspan="5">担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直など</td></tr>
</table>

独立行政法人国立病院機構奈良医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ･国立病院機構職員として労務環境が保障されています。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･産業医とともにメンタルストレスに適切に対処する部署（庶務班）があります. ･ハラスメント規定が国立病院機構全体で整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・近隣に共同利用契約保育所があります。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が3名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療安全5回，感染対策 2 回）しています。 ･研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･定期的に開催される CPC には，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域のうち，総合内科，呼吸器，神経，アレルギー，感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています（2025 年度 1 演題発表済み）。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医5名 日本呼吸器学会呼吸器専門医3名， 日本神経学会神経内科専門医4名， 日本アレルギー学会専門医（内科）1名， 日本老年医医学会老年病専門医　1名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医1名
外来･入院患者数	外来患者 167.2 名（1 ヶ月平均）　入院患者 278.1 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	･きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.

経験できる技術・技能	·技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	·急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本老年医学会認定施設 日本病院総合診療医学会認定施設

奈良県西和医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・施設内に研修に必要なインターネット(Wi-fi)環境を整備している。 ・奈良県西和医療センターの常勤医師として適切な労務環境を保障している(適切な給与計算、福利厚生、休暇の取得の推奨等を行っている)。 ・メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携を行う。また、ハラスメントやメンタルを含む困りごと相談窓口を設置しており、必要に応じて産業医面談を受けることが可能)。 ・女性専攻医が安心して勤務できるよう、医局に休憩場所があり、女性医師専用更衣室が設置されている。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・内科系指導医が 13 名在籍している。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催しており、それぞれ年 2 回ずつの受講を義務付けている。また、受講に配慮し開催時間の配慮を行なっている。 ・診療科の垣根を越えた合同カンファレンスを定期的に開催しており、時間的配慮の上、J-OSLER や症例検討の支援を行っている。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医の受講を推奨している。受講するため開催時間を調整している。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会又は同地方会で年間計1演題以上の学会発表を奨励し、指導医が積極的に指導・補助する体制を整えている。
指導責任者	土肥 直文(院長　兼 専門研修プログラム統括責任者) 【内科専攻医へのメッセージ】 奈良県西和医療センターは、奈良県の西部にある西和 2 次保険医療圏の基幹病院です。すなわち西和7町と香芝市・広陵町などの周辺地域の人口 30 万人の住民の命と健康を守ることを使命とする重症急性期医療を担う地域医療支援病院なのです。2024 年度の救急搬送数は、4,278 台／年であり、救急医療の砦であるとともに、地域の医療機関からの紹介患者さんに対する、高度急性期・重症急性期医療が中心です。在籍する内科医は 37 名(2025 年 4 月 1 日現在)、うち内科専門医研修を履修中の専攻医は 6 名です。当院を基幹施

	設とするプログラムに所属する専攻医と、奈良県立医科大学や大阪公立大学などを基幹施設とする専攻医が在籍しています。 この 6 名の専攻医はそれぞれの内科に分かれて研修しています。副院長兼総合内科部長（感染症内科部長と腫瘍内科部長兼務）の中村孝人先生や、腎臓内科部長で医師臨床研修プログラム責任者の森本勝彦先生を教育の中心に配置し、各内科が本当に仲良く教育の環境を整えています。 当院の内科専攻医は、内科系救急対応、内科の初診対応を数多く担当するため、知らず知らずのうちに臨床推論や内科診断学の力がついてきます。また、各診療科では最先端の専門的治療に関することも教育していますので、例えば循環器内科であれば PCI やカテーテルアブレーションの世界、消化器内科では内視鏡治療の世界、腎臓内科では広くかつ深い疾患知識や腎生検、腎代替療法の世界、呼吸器内科では呼吸器の深い世界や気管支鏡の世界を、総合内科・感染症内科・腫瘍内科では、内科専門医のさらに先の深みの世界を経験してもらうことができます。 各内科の医師たちは、臨床に追われながらも教育を大切に思っている者ばかりです。この文章を読んでくれている君が、私たちの仲間となり、一緒に勉強し臨床の研鑽を積んでいってくれることにより、本当に魅力的な内科専門医になってくれることを期待しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 14 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 12 名 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 5 名 日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本老年医学会老年病専門医 1 名 日本肝臓学会肝臓専門医 4 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	延外来患者数:58,786 名 / 年、新規外来患者数:4,564 名/年 延入院患者数:57,906 名 / 年、新規入院患者数:4,752 名/年 ※ 2024 年度内科系実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	バイタルサインの把握、重症度及び緊急度の把握、ショックの診断と治療、二次救命処置、頻度の高い救急疾患の初期治療、専門医への適切なコンサルテーション、予防医療のほか、急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。

学会認定施設 （内科系）	植込み型除細動器移植認定施設 経皮的カテーテル心筋焼灼術(カテーテルアブレーション)認定施設 日本がん治療認定医機構認定医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器病学会専門医制度関連施設 日本循環器学会認定循環器専門研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定専門医制度認定施設 日本動脈硬化学会専門医制度教育病院 日本内科学会認定医制度教育病院 日本内科学会認定制度教育関連施設 日本脈管学会認定訓練施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 腹部大動脈瘤ステントグラフト実施認定施設 経皮的中隔心筋焼灼術認定施設 ペースメーカ移植術認定施設 両心室同期ペースメーカ移植認定施設 ローターブレーター認定施設　など

週間スケジュール

<table>
<tr><th>時</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="5">8:00-9:00　症例カンファレンスおよび回診</td><td rowspan="7">当直など</td></tr>
<tr><td>9</td><td rowspan="4">9:00～12:00　外来</td><td rowspan="4">9:00～12:00
検査（心カテなど）</td><td rowspan="4">9:00～12:00
病棟</td><td rowspan="4">9:00～12:00
検査（内視鏡）</td><td rowspan="4">9:30～12:00
内科回診</td></tr>
<tr><td>10</td></tr>
<tr><td>11</td></tr>
<tr><td>12</td></tr>
<tr><td>13</td><td rowspan="3">13:00～17:00
内科病棟</td><td rowspan="3">13:00～17:00
検査（心カテなど）</td><td rowspan="3">13:00～17:00
検査（エコーなど）</td><td rowspan="4">13:00～17:00
検査（内視鏡）</td><td rowspan="3">13:00～17:00
救急</td></tr>
<tr><td>14</td></tr>
<tr><td>15</td></tr>
<tr><td>16</td><td>レクチャー</td><td></td><td>ケースカンファレンス抄読会</td><td rowspan="2">心電図勉強会</td></tr>
<tr><td>17</td><td>死亡症例検討会（週 1 回）</td><td>症例検討会</td><td></td><td></td></tr>
</table>

18 19					CPC	

独立行政法人地域医療機能推進機構　大和郡山病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･大和郡山病院　常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する部署（総務企画課職員担当）があります。 ･専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ･近隣に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 2 名在籍しています（下記）. ･研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績、医療安全 3 回（各複数回開催），感染対策 7 回（各複数回開催））し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンス（2018 年度開催予定）を定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　臨床カンファレンス 1 回、合同カンファレンス週1回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，代謝，呼吸器救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	藤村　和代　副院長兼消化器内科医長 【内科専攻医へのメッセージ】 　大和郡山病院は独立行政法人地域医療機能推進機構が所管する病院のひとつで、大和郡山市にある地域の中心的な急性期病院であり内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います.

指導医数 （常勤医）	日本プライマリ・ケア学会認定指導医　1 名， 日本内科学会総合内科専門医　1 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 9,000 名（1 ヶ月平均）　入院患者 4,800 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会関連施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 肝疾患に関する専門医療機関など

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:00		病棟回診	病棟回診		
8:30	内科外来	内科初診外来	救急当番	超音波検査他	上部消化管　内視鏡検査
9:00					
10:00					
11:00					
12:00	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
13:00	内科病棟	下部消化管 内視鏡検査	治療内視鏡	内科病棟	内科病棟
14:00					
15:00					
16:00					
17:00					
17:30					
18：00～			救急外来 （小児輪番含む）	臨床 カンファレンス	

医師の異動に伴い変更される場合があります。

国保中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・メンタルストレスに適切に対処する制度があります. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり,利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 3 名在籍しています. ・倫理委員会を設置し、適宜開催しています. ・ 内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2015 年度実績;医療安全委員会研修会 2 回, 感染対策委員会研修会 2 回)し, 専攻医に受講を義 務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス(2015 年度実績 病診・病病連携カンファレンス 2 回)を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、感染症の分野では一部のまれな疾患を除いて専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会地方会に定期的な学術発表をしています. ・サブスペシャルティ領域として、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会 等でも学術発表をしています. ・専攻医は内科学会だけでなく、上記のサブスペシャルティ領域の学会への参加・発表する機会があります.
指導責任者	吉川 雅章 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、磯城 3 町及び広陵町の拠点病院として地域医療の充実や人材育成に努めています。ガイドラインに則した医療を原則とし、多職種によるチーム医療で患者本位の医療サービスを提供しており、全人類的医療を実践できる内科医を育成します。 消火器関連疾患については、初期診療から専門的医療を研修できます。また、ホスピスを併設しており、緩和ケア科の医師と連携して、今後さらに重要性

	を増す悪性疾患をはじめとする終末期医療について幅広い知識、技能を習得することができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本内科学会認定医 7 名 日本消化器病学会指導医 3 名 日本消化器病学会近畿支部評議員 1 名 日本消化器病学会専門医 7 名 日本内視鏡学会指導医 1 名 日本内視鏡学会専門医 7 名 日本肝臓学会肝臓専門医 6 名 日本肝臓学会肝臓指導医 2 名
外来・入院患者数	年間総入院患者数（実数） 2,928 名　年間総外来患者（実数）8,695 名
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、総合内科、消化器の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. 代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、感染症の分野では一部のまれな疾患を除いて専門研修が可能な症例数を診療しています. 研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した内科疾患について、幅広く経験することが可能です.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設

内科研修週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
9:00～	外来（初診）	検査（上部消化管内視鏡）	外来（初診）	検査（上部消化管内視鏡）	外来（初診）	外来（初診）※
		特殊検査（超音波内視鏡）		特殊検査（超音波内視鏡）		
休憩（12:00～13:00）						
午後	検査（下部消化管内視鏡）	特殊検査（ERCP、ESD等）	内科全体回診	特殊検査（ERCP、ESD等）	検査（下部消化管内視鏡）	
13:00～						
				特殊検査（PTCD、腹部血管造影検査）		
17:00～	抄読会（隔週）				内科全体カンファレンス	
18:00～	勉強会			勉強会		
						※；隔週
備　考	■上級医と適宜当直					
	■適宜時間外救急対応					
	■終業時には上級医に受け持ち入院患者の状況報告を行う.					
	■午前勤務については診察状況に応じて変更あり.					
	■学会、地方会、研究会は可能な限り参加を推奨する.					

社会医療法人健生会土庫病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･社会医療法人健生会常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ･ハラスメント委員会設置予定です. ･女性専攻医が安心して勤務できるように, 更衣室, シャワー室, 当直室が整備されています. ･法人敷地内に院内保育所があり, 病児保育園も開設しています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 2 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績　医療安全 4 回、感染対策 2 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催(2024 年度実績 3 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2024 年度実績　2 演題)をしています。
指導責任者	洲脇直己 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は奈良県大和高田市にあり、199 床の中規模病院で、内科 126 床で運用しています。臓器や疾患を選ばず、患者さん中心の医療・全人的医療をめざし、基本的臨床能力の向上・標準的医療の推進、さらに患者さんの抱える社会的問題への積極的な取り組みを行っています。また消化器病センター(大腸肛門病センター)を有し、近畿圏でも特色ある病院として発展してきました。消化器全般の病気について早期発見から治療・緩和ケアに至るまでの医療を強化しています。カンファレンスも充実しており、新入院、救急症例、総合診療、内視鏡病理、循環器、呼吸器などのカンファレンスを積極的に開催し、自分の受け持ち以外の病態等についても理解を深めることができます。臨床症状の背景に生じている疾患の病態を深く広く理解することを重視したトレーニングを通じて、内科全般の力をつけていきます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 2 名　日本内科学会総合内科専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名　日本救急医学会救急科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 3151 名(1 ヶ月平均)　入院患者 2152 名(1 ヶ月平均延数)内科
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を経験することができます.

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．法人内には在宅療養支援診療所、訪問看護、訪問リハビリ、老健を有し、救急、外来～入院～在宅のシームレスな医療現場で地域医療が研修が可能です。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本認知症学会教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設　など

週間スケジュール

<table>
<tr><th>時</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="6">8:00～8:45　内科新入院カンファレンス</td></tr>
<tr><td>8</td><td colspan="6">8:45～9:00　申し送り</td></tr>
<tr><td>9</td><td rowspan="4">9:00～13:00
内科病棟</td><td rowspan="4">8:30～13:00
内科病棟</td><td rowspan="4">9:00～13:00
救急</td><td rowspan="4">9:00～13:00
内科外来</td><td rowspan="4">9:00～13:00
超音波研修</td><td rowspan="4">9:00～13:00
内科病棟
（隔週）</td></tr>
<tr><td>10</td></tr>
<tr><td>11</td></tr>
<tr><td>12</td></tr>
<tr><td>13</td><td rowspan="4">13:00～17:00
内科病棟</td><td rowspan="4">当直あけ</td><td rowspan="2">13:00～15:00
内科病棟</td><td rowspan="4">13:00～17:00
内科病棟</td><td rowspan="4">13:00～17:00
内科病棟</td><td rowspan="8"></td></tr>
<tr><td>14</td></tr>
<tr><td>15</td><td rowspan="2">15:00～17:00
内科カンファ・研修振り返り</td></tr>
<tr><td>16</td></tr>
<tr><td>17</td><td colspan="5">内科カンファ</td></tr>
<tr><td>18</td><td rowspan="2">当直</td><td colspan="3" rowspan="2"></td><td rowspan="2">週末カンファ</td></tr>
<tr><td>19</td></tr>
</table>

済生会奈良病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･済生会奈良病院常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署(衛生委員会)があります. ･ハラスメント事例に適切に対処する部署(衛生委員会)があります. ･女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 4 名在籍しています(下記). ･内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(2014 年度実績 医療倫理 1 回(複数回開催), 医療安全 2 回(各複数回開催), 感染対策 1 回(各複数回開催))し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンス(2017 年度予定)を定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ･必要時には院内 CPC を開催, もしくは基幹病院での CPC への受講を専攻医に義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス(実績 済生会奈良病院勉強会毎年2月)を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 総合内科, 呼吸器, 消化器, 循環器および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	今井 照彦 副院長 【内科専攻医へのメッセージ】 済生会奈良病院は奈良県の北和地域にあり, 急性期一般病棟 131 床, 回復期リハビリテーション病棟 43 床, 包括病棟 20 床の合計 194 床を有し, 地域の医療･保健･福祉を担っています. 奈良県立医科大学, 奈良県総合医療センターならびに奈良市立病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い, 内科専門医の育成を行

	います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 4 名，日本呼吸器学会専門医指導医1名・同専門医3名，日本消化器病学会消化器専門医 1 名，消化器内視鏡学会専門医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 4800 名（1 ヶ月平均）　入院患者 390 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会認定施設，日本消化会内視鏡学会指導施設， 日本がん治療認定医機構認定施設，日本呼吸器内視鏡学会認定施設， 日本超音波医学会認定超音波専門研修施設，日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設， 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設，日本睡眠学会認定医療機関 B 型 29 号， 日本神経学会教育関連施設

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	救急対応 （藤岡医師）	救急対応 （宮高医師）	救急対応 （春成医師）	胃カメラ 3F 内視鏡室	内科外来1診	内科部長 病棟総回診
午後	副院長 病棟総回診	気管支鏡 放射線科	心エコー 超音波室	大腸内視鏡 他内視鏡処置 放射線科	※病棟研修 担当患者の対応や病棟処置	
夕	症例検討会 （18 時） 大会議室 終了後は担当指導医との検討時間を設ける			内視鏡検討会 （18 時）内視鏡室 終了後は担当指導医との検討時間を設ける		

内科業務

●午前，午後の業務は担当医師とともに従事する．

●専攻医担当症例については副院長，内科部長から決定があり，常勤内科医師と共同もしくは単独での主治医となる．

●(月)，(木)には業務終了後に指導医と，診断，治療，処置等についての検討時間を設ける．

●上記以外の時間は適宜担当症例の臨床研修にあたる．

●時間外業務や当直業務については，病院の指示により従事する．

病院業務

●第1土曜日：午前8時30分　医局会：大会議室

●第3土曜日：午前8時15分内科・外科合同カンファレンス：大会議室

医療法人岡谷会おかたに病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度協力型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･メンタルストレスに適切に対処する部署(病院管理委員会)があります. ･各種ハラスメントに対処する部署が(病院管理委員会)があります. ･女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ･病院近隣の法人内施設に院内保育所があり, 利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 1 名在籍しています(下記). ･内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(2014 年度実績:医療安全 2 回, 感染対 4 回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ･基幹施設で開催される CPC に専攻医の受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス(2014 年度実績:病診連携カンファレンス12 回, 病病連携カンファレンス 1 回)を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 総合内科および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	三好　毅志 【内科専攻医へのメッセージ】 　おかたに病院は奈良県の奈良市北部にあり, 急性期一般病棟 75 床, 回復期リハビリテーション病棟 50 床, 地域包括ケア病床 25 床の合計 150 床を有し, 地域の医療･保健･福祉を担っています. 市立奈良病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い, 内科専門医の育成を行います.
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 1 名, 日本内科学会総合内科専門医 1 名, 日本プライマリケア連合学会指導医 2 名
外来･入院患者数	外来患者 67,661 名(2014 年度)　　入院患者 3,090 名(2014 年度)

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．

週間スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr>
<tr><td>8:00</td><td></td><td></td><td>抄読会</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>8:30</td><td>申送り</td><td>申送り</td><td>申送り</td><td>申送り</td><td>申送り</td><td>申送り</td></tr>
<tr><td>9:00</td><td rowspan="8">内科病棟</td><td rowspan="8">内科外来</td><td rowspan="8">訪問診療</td><td rowspan="8">内科外来</td><td rowspan="8">内科外来</td><td rowspan="8">内科病棟</td></tr>
<tr><td>9:30</td></tr>
<tr><td>10:00</td></tr>
<tr><td>10:30</td></tr>
<tr><td>11:00</td></tr>
<tr><td>11:30</td></tr>
<tr><td>12:00</td></tr>
<tr><td>12:30</td></tr>
<tr><td>13:00</td><td rowspan="7">救急</td><td rowspan="2">在宅 CC</td><td rowspan="2">多職種 CC</td><td rowspan="4">院長回診</td><td rowspan="2">多職種 CC</td><td rowspan="8"></td></tr>
<tr><td>13:30</td></tr>
<tr><td>14:00</td><td rowspan="6">内科病棟</td><td rowspan="6">内科病棟</td><td rowspan="5">内科病棟</td></tr>
<tr><td>14:30</td></tr>
<tr><td>15:00</td><td rowspan="4">内科病棟</td></tr>
<tr><td>15:30</td></tr>
<tr><td>16:00</td></tr>
<tr><td>16:30</td><td rowspan="2">内科 CC</td><td rowspan="2">地域連携 CC</td></tr>
<tr><td>17:00</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

京都府立医科大学付属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な附属図書館とインターネット環境があります。 ･京都府立医科大学附属病院専攻医として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（保健管理センター）があります。 ･ハラスメント防止委員会が京都府立医科大学に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所及び病児保育室があり、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が69名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療安全5回、感染対策3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（京滋奈画像診断カンファレンス2回/年、京滋内視鏡治療勉強会2回/年、京滋消化器研究会１回/年、IBDコンセンサスミーティング2回/年、Kyoto IBD Management Forum１回/年、IBDクリニカルセミナー１回/年、関西肝胆膵勉強会2回/年、京滋大腸疾患研究会１回/年、京滋食道研究会１回/年、京都GIクラブ2回/年、京滋消化器先端治療カンファレンス１回/年、鴨川消化器研究会１回/年、関西EDS研究会１回/年、古都DMカンファレンス１回/年、京都かもがわ糖尿病病診連携の会１回/年、京都リウマチ・膠原病研究会１回/年、KFS meeting(Kyodai-Furitsudai-Shigadai Meeting) １回/年、糖尿病チーム医療を考える会１回/年、 糖尿病と眼疾患を考える会 in Kyoto１回/年、Coronary Frontier１回/年、京滋心血管エコー図研究会2回/年、京都心筋梗塞研究会 ２回/年、KNCC(Kyoto New Generation Conference of Cardiology) １回/年、京都ハートクラブ１回/年、京都臨床循環器セミナー１回/年、Clinical Cardiology Seminar in Kyoto１回/年、京都漢方医学研究会4～5回/年など）を定期的に参画し、専攻医に受講を推奨し、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPCを定期的に開催し（2021年度 16回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	･プログラムに所属する全ての専攻医にJMECC受講を義務付け（2023年度1回）、その時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･このプログラムでは，「地域医療機関」として 25 の連携施設および「基幹施設と異なる環境で高度医療を経験できる施設」として 21 の連携施設の派遣研修では、各施設の指導医が研修指導を行います。その他、9 の特別連携施設で専門研修する際には、電話やインターネットを用いたカンファレンスにより指導医が研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち，総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、脳神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70疾患群のうち、ほぼ全疾患群（少なくとも45以上の疾患群）について研修できます。 ･専門研修に必要な院内カンファレンス（消化管カンファレンス、肝胆膵病理カンファレンス、肝移植カンファレンス、内科外科病理大腸カンファレンス、ハートチームカンファレンス、成人先天性心疾患カンファレンス、腎病理カンファレンス、血液内科移植カンファレンス、リウマチチームカンファレンス、びまん性肺疾患カンファレンス、キャンサーボード、緩和ケアカンファレンスなど）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･専門研修に必要な剖検（2021 年度 10 体、2022 年度実績 11 体、2023 年度 11 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書館などを整備しています。 ･倫理委員会が設置されており、定期的または必要に応じて開催しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表をしています（2019 年度 16 演題）。さらに、各 Subspeciality 分野の地方会には多数演題発表しています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】 京都府立医科大学（以下，本学）は明治5年に創立され、まもなく開学150年を迎える我が国でも有数の歴史と伝統を有する医科大学です。これまで多くの臨床医と医学研究者を輩出してきました。この伝統をもとに、世界のトップレベルの医学を地域に生かすことをモットーとしています。 本プログラムは、京都府の公立大学である本学の附属病院を基幹施設として、京都府を中心に大阪府・滋賀県・兵庫県・岐阜県・奈良県・和歌山県・

	福井県・静岡県・山形県にある連携施設・特別連携施設と協力し実施します。内科専門研修を通じて、京都府を中心とした医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療を行える内科専門医の育成を行います。さらに、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後は、内科各領域の高度なサブスペシャルティ専門医の教育を開始します。 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間＋連携施設1年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得することができます。 内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系サブスペシャルティ分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力を指します。また、知識や技能に偏らずに、患者に慈しみをもって接することができる能力でもあります。さらに、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドを修得して、様々な環境下で全人的な内科医療を実践できる能力のことでもあります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医71名、日本内科学会総合内科専門医65名 日本消化器病学会消化器専門医18名、日本循環器学会循環器専門医15名、 日本内分泌代謝科専門医3名、日本糖尿病学会専門医10名、 日本腎臓病学会専門医12名、日本呼吸器学会呼吸器専門医20名、 日本血液学会血液専門医12名、日本神経学会神経内科専門医13名、 日本アレルギー学会専門医（内科）3名、日本リウマチ学会専門医16名、 日本感染症学会専門医3名、日本救急医学会救急科専門医0名、ほか
外来・入院患者数	2023 年度外来患者数 38,571 人（１ヶ月平均） 2023 年度入院患者数 15,165 人（１ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 、日本消化器病学会認定施設 、日本消化管学会胃腸科指導施設 、日本カプセル内視鏡学会指導施設 、日本呼吸器学会認定施設 、日本糖尿病学会認定教育施設 、日本腎臓学会研修施設 、日本アレルギー学会認定教育施設 、日本リウマチ学会認定施設 、日本消化器内視鏡学会認定指導施設 、日本循環器学会認定循環器専門医研修施

	設　、日本老年医学会認定施設　、日本肝臓学会認定施設　、日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設　、日本透析医学会認定医制度認定施設　、日本血液学会認定研修施設　、日本大腸肛門病学会専門医修練施設　、日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設　、日本神経学会専門医制度認定教育施設　、日本脳卒中学会認定研修教育病院　、日本呼吸器内視鏡学会認定施設　、日本神経学会専門医研修施設　、日本内科学会認定専門医研修施設　、日本老年医学会教育研修施設　、日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設　、日本東洋医学会研修施設　、ICD/両室ペーシング植え込み認定施設　、日本臨床腫瘍学会認定研修施設　、日本肥満学会認定肥満症専門病院　、日本感染症学会認定研修施設　、日本がん治療認定医機構認定研修施設　、日本高血圧学会高血圧専門医認定施設　、ステントグラフト実施施設　、日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設　、日本認知症学会教育施設　、日本心血管インターベンション治療学会研修施設　、日本不整脈学会認定研修施設　、日本動脈硬化学会認定研修施設　、日本心臓リハビリテーション学会認定研修施設 など

週間スケジュール

＜内科研修プログラムの週間スケジュール：消化器内科の例＞

ピンク部分は特に教育的な行事です.

	月	火	水	木	金	土・日
午前	回診，持ち患者情報の把握					
	内視鏡検査，超音波検査，X 線検査					
	病棟	外来，学生・初期研修医の指導	病棟	病棟	病棟	週末当直(2/月)
午後	病棟，学生・初期研修医の指導	緊急出番	病棟	病棟，学生・初期研修医の指導	消化器内視鏡検査	内視鏡ハンズオンセミナー(1/月)
	総回診	外科・放射線科とのカンファレンス	医局会	イブニングセミナー	キャンサーボード	超音波ハンズオンセミナー(1/月)
		抄読会・研究発表会	症例検討会			
	当直(1/週)					

大阪公立大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･臨床研修指定病院（基幹型研修指定病院）です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･大阪公立大学医学部附属病院前期研究医として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生担当）があります。 ･ハラスメント委員会が大阪公立大学に整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 93 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療安全 12 回、感染対策 16 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績　9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績　20 演題）をしています。
指導責任者	川口知哉（大阪公立大学内科連絡会教授部会会長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　大阪公立大学は大阪府内を中心とした近畿圏内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。

指導医数・専門医数 （内科系） （常勤医）	日本内科学会指導医 93 名，日本内科学会総合内科専門医 75 名， 日本消化器病学会消化器専門医 30 名，日本アレルギー学会専門医（内科）7 名， 日本循環器学会循環器専門医 14 名，日本リウマチ学会専門医 4 名， 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 4 名,日本感染症学会専門医 4 名， 日本腎臓病学会専門医 8 名，日本糖尿病学会専門医 12 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 15 名，日本老年学会老年病専門医 2 名， 日本血液学会血液専門医 11 名，日本肝臓学会肝臓専門医 11 名， 日本神経学会神経内科専門医 4 名，日本消化器内視鏡学会専門医 21 名,ほか
外来・入院患者数	外来患者 149,211 名（2024 年度　延べ数） 入院患者　81,481 名（2024 年度　延べ数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会認定施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本腎臓学会研修施設、 日本アレルギー学会認定教育施設、 日本消化器内視鏡学会認定指導施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本老年医学会認定施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設、 日本透析医学会認定医制度認定施設、 日本血液学会認定研修施設、 日本神経学会認定教育施設、 日本脳卒中学会認定研修教育病院、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、 日本東洋医学会研修施設、 日本臨床腫瘍学会認定研修施設、

	日本肥満学会認定肥満症専門病院、 日本感染症学会認定研修施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設、 ステントグラフト実施施設、 日本認知症学会教育施設、 日本心血管インターベンション治療学会研修施設、 日本リウマチ学会認定教育施設など

市立東大阪医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･市立東大阪医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメント相談窓口が設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、病児保育も含めて利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 17 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績はそれぞれ 1 回・2 回・2 回、 Web 開催を含む）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC については、COVID-19 の影響により、開催に制限を受けていますが、2022 年度 3 回、2023 年度 3 回、2024 年度 4 回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ･地域参加型のカンファレンス（市立東大阪医療センタースクラム会、東大阪市循環器研究会、東大阪市神経筋難病地域ケア研究会、東大阪生活習慣病研究会、東大阪市消化器病症例検討会、東大阪市腎臓病カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、血液、神経、膠原病、感染症、救急の 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 5 演題）をしており、その他関連学会での学会発表もしています。
指導責任者	プログラム統括責任者　鷹野　譲 【内科専攻医へのメッセージ】 　市立東大阪医療センターは、大阪府中河内医療圏に 2 病院しかない内科学会教育病院の 1 つで、当地区の中心的な急性期病院であり、中河内医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。また、2017 年 4 月より 3 次救命救急センターである、隣接府立中河内救命救急センターの指定管理も受託しており、当センターとの一体化した運用により、高度の救急疾患も経験できます。さらに、2019 年度には ICU、手術室の大幅な拡張工事を行い、心臓血管外科の手術も開始し、アブレーションなど循環器内科の症例も飛躍的に増加する一方、脳外科と神経内科で脳卒中当直（SCU）も開始し、さらに優れた急性期医療を経験できるようになりました。 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 4 名 日本神経学会専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 2 名 日本肝臓学会専門医 9 名、日本老年病学会専門医 1 名 日本血液学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 72,399 名/年、　新患 9,847 名/年 入院患者 60.370 名/年、新入院 4,948 名/年（実数）2024 年度内科系実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本病院総合診療医学会認定施設　など

橋本市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室や研修用の DVD とインターネット環境(Wi-fi)完備しています. ・橋本市非常勤医師として労務環境が保障されています. ・セクハラスメント,メンタルストレスに適切に対処する部署(職員安全衛生委員会)があります. ・女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり,利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・総合内科指導医が 6 名在籍しています(下記). ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催 2024 年度実績は医療安全 2 回,感染対策 2 回し,専攻医に受講を義務付け,そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画するように勤務を調整します. ・CPC を定期的に開催(2024 年度実績 2 回)しています.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち,総合内科,消化器,循環器,呼吸器,内分泌,代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています. ・UptoDate など複数のオンライン文献も利用できます。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています.
指導責任者	病院長　駿田　直俊 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は地域の中核病院として、様々な疾患やマルチプロブレムのある高齢者など、多様な患者を診ることができます。教育にも力をいれており、ともに学んでいく場を整備しております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会専門医 6 名,日本内科学会認定医 8 名,日本内科学会総合内科専門医 6 名,日本糖尿病学会指導医 1 名・専門医 1 名、日本循環器学会専門医 3 名、日本呼吸器学会指導医 2 名、日本アレルギー学会指導医 1 名、日本消化器病学会専門医 4 名、日本消化器内視鏡学会専門医 3 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会指導医 1 名　他
外来・入院患者数	外来患者 3006 名(1 ヶ月平均) 入院患者 3324 名(1 ヶ月平均延数) （上記は内科全体としての数）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある13領域，70疾患群の症例を経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本医療機能評価機構認定病院 卒後臨床研修評価機構認定病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本内科学会認定教育施設 日本高血圧学会専門認定施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本アレルギー学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 など

週間スケジュール

時	月	火	水	木	金	土
7			7:30-8:00 Web カンファ	7:30-8:00 Web レクチャー		
8	8:00-8:30 多職種カンファ			8:00-8:30 身体所見教育回診		
9	9:00-12:00 病棟回診 週1回外来初診担当 週1回入院受け担当					
10						
11						
12						
13	13:00-16:00 病棟回診 週1回外来再診担当 週1回 ER バックアップ					13:00-15:00 レジデントデイ （月1回）
14						
15						
16						
17	17:00-18:00 内科病棟	17:00-18:00 内科病棟	17:00-18:00 内科病棟	17:00-18:00 内科病棟	17:00-18:00 内科病棟	

	全体カンファ	チームカンファ	チームカンファ	チームカンファ	全体カンファ	
18						
19					19:30-21:00 Web レクチャー	

公立丹南病院

認定基準 【整備基準 24】1) 専攻医の環境	・ 初期医療研修における地域医療研修施設です. ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・ 公立丹南病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(労働安全衛生委員会)があります. ・ ハラスメント委員会が公立丹南病院に整備されています. ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・ 敷地内に院内保育所があり, 利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 総合内科専門医が2名在籍しています(下記) ・ 内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2015 年度実績 医療倫理(医局会開催時) 2回、医療安全 2回 感染対策 3回)開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・ 研修施設群合同カンファランス(2017 年度予定)を定期的に参画し専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・ CPC は開催されていないが、研修施設群内での開催に、専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 消化器, 呼吸器、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を、2016 年度予定しています。

指導責任者　　伊藤義幸 【内科専攻医へのメッセージ】 公立丹南病院は福井県丹南地区にあり，急性期一般病棟 175 床，感染症（2種）4床の合計 179 床を有し，地域の医療・保健・福祉を担っています．※※福井大学医学部附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います．	
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　3名，（日本内科学会総合内科専門医　3名） 日本消化器病学会消化器専門医　2名，日本神経内科学会専門医 1 名，
外来・入院患者数	2015 年度、外来患者 534.5 名（1 ヶ月平均）　入院患者 115.6 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 4 領域，26 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経 験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会関連施設

時	月	火	水	木	金	土
7	7:30-8:30　総合内科（新患）症例カンファレンス					7:30 カンファ
8	8:30　申し送り				8:30　申し送り	
9 10 11 12	8:30～12:45　外来	8:30～12:45 内科病棟（選択）	8:30～12:45 内科回診（選択）	8:30～12:45 内科初診外来（選択）	8:30～12:45 内科回診	8:30～12:45 内科（隔週）
13 14 15 16	13:00～17:00 内科病棟（選択）	13:00～17:00 内科病棟（選択）	12:45～17:00 ER	13:00～17:00 内科病棟（選択）	13:00～17:00 救急超音波研修	

17			ER 振返り	18:00～23:00 ER バックアップ（小児輪番含む）	内科外来カンファ	
18	M&M（月 1 回）	研究発表会/CPC				
19	胸部画像読影（隔週）					

パナソニック健康保険組合　松下記念病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 常勤職員として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスやハラスメントに適切に対処する部署（パナソニック健保本部人事総務部）があります。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 23 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、副統括責任者、指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会とキャリア支援センターを設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2024 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 全職員・地域参加型のカンファレンス（淀川 GI カンファレンス、くすのき・さつき循環器カンファレンス、くすのき・さつき脳神経フォーラム等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査にはキャリア支援センターが対応します。 ・
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群の全疾患群について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 6 体）を行っています。
認定基準	・ 臨床研究に必要な図書室を整備しています。

【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 倫理審査委員会を設置し、定期的に開催(2024 年度実績 13 回)しています。 ・ 臨床研究管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催(2024 年度実績 12 回)しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	鎌田　和浩 【内科専攻医へのメッセージ】 松下記念病院は、地域の中核病院として common disease から救急疾患まで様々な疾患の診療をおり、中規模病院の特性を生かして、各科が常に連携して各症例に対応しています。より良い研修のために研修プログラムとともに、労働環境にも目を向けそのシステム改善に取り組んでいます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 23 名、日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会専門医 3 名、日本血液学会専門医 3 名 日本神経学会専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医 0 名、 日本リウマチ学会専門医 3 名、日本感染症学会専門医 0 名、 日本救急医学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者数 12,627 名(1 ヵ月平均) 新入院患者数 557 名(1 ヵ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、専攻医登録評価システム(J-OSLER)(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会研修施設 非血縁者間骨髄採取・移植認定施設(骨髄移植推進財団) 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 胃癌全国登録認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育関連施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本老年医学会認定施設

	日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本食道学会全国登録認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本検査血液学会認定骨髄検査技師研修施設 日本アフェレシス学会認定施設　など

一般財団法人　住友病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度、基幹型研修指定病院です。 ・専攻医各個人に1つずつ座席とロッカーが与えられます。 ・研修に必要なインターネット環境があります。各個人にそれぞれ1台のPC端末が　貸与され常に電子カルテにアクセス可能です。カルテからの情報収集やカルテ記載のために順番待ちをするということはありません。 ・また図書室は24時間使用可能です。100種以上の英文ジャーナルを定期購読しており、専任の司書が存在するので文献検索も容易です。 ・一般財団法人住友病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・院内のレストランは昼食、夕食に利用可能で、病院からの補助があるので　1食350～400円程度で質、量ともに満足できます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は38名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者・副院長）、にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・病診連携や病病連携など地域参加型のカンファレンス（基幹施設：中之島地域医療セミナー、臨床集談会、北大阪生活習

	慣病病診連携をすすめる会、SOKsの会（循環器）、新大阪腎疾患カンファレンス、大阪血液疾患談話会、神経内科の集い、大阪肝疾患臨床検討会 OLD-CC、呼吸器 CRP カンファレンス、なにわ緩和ケアカンファレンス、など；年間 60～70 回）を定期的に開催し、ローテート中の専攻医に受講を勧め、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（院内開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 4 体、2023 年度 7 体、2024 年度 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、医学写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 5 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2024 年実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2022年度実績10演題、2023年度実績10演題、2024年度実績9演題）をしています。 ・専攻医が学会に参加・発表する機会が多くあり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。在籍中に筆頭著者として英文論文を複数発表した専攻医も過去に何人もいます。
指導責任者	山本 浩司 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は大阪医療圏の中心的な急性期病院の一つであり、近隣医療圏にある多くの連携施設と併せて内科専門研修を行っています。 急性期から慢性期まで、また、common diseaseから専門性の高い疾患の高度医療に至るまで、できる限り多くの症例を主担当医として経験し幅広い知識・技術を習得して頂くとともに、患者の社会的背景の把握、療養環境調整など全人的な医療を実践でき、地域医療にも貢献できる内科専門医の養成を目標としています。 診療科・出身医局・職種間の垣根が低く、連携・協力関係が極めて良好であるという当院の特色を生かして研修に邁進して頂きたいと思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医38名，日本内科学会総合内科専門医31名 日本消化器病学会消化器専門医9名、日本循環器学会循環器専門医6名、 日本糖尿病学会専門医6名、日本内分泌学会専門医4名、 日本腎臓学会専門医6名、日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、 日本血液学会血液専門医4名、日本神経学会神経内科専門医8名、 日本アレルギー学会専門医1名、日本リウマチ学会専門医4名、 日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか

外来・入院患者数	外来患者 1,256 名（1 日平均） 入院患者 327 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、専攻医登録評価システム（J-OSLER）（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会認定医研修施設 日本老年医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧研修施設 日本超音波医学界認定超音波専門医制度研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本認知症学会認定専門医教育施設　　など

特別連携施設

三重県立志摩病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります. ・県立病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当、外部カウンセラー）があります. ・ハラスメント委員会が県立志摩病院に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.

	・病院近傍に院内保育所があり，利用可能です．
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が3名在籍しています。 ・研修管理委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績　医療倫理　1回（複数回開催），医療安全2回（各複数回開催），感染対策2回（各複数回開催）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024年度実績3回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます． ・地域参加型のカンファレンス（を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科，消化器，循環器，腎臓，呼吸器，神経，内分泌，代謝，感染，アレルギー、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています．
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2024年度実績1演題）を予定しています。
指導責任者	堀井　学 （内科専攻医へのメッセージ） 　三重県立志摩病院は、三重県志摩地域の中心的な急性期病院であり，東京ベイ・浦安市川医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います。 ・医師１人あたりの診療患者数は、適度かつ多種多様な疾患を経験することができます。救急や一般外来の時点から、入院中、さらに退院後フォローまで患者さんを一貫して対応可能です。さらに希望者には内視鏡、心臓カテーテル検査・治療や腹部・心エコーの技術研修も可能です。 ・各科に分化していない内科なので、出会える疾患は多岐に渡ります。各指導医の得意分野も、消化器疾患、循環器疾患、糖尿病・内分泌、神経内科と分かれており、より深い指導を受けることもできます。 ・週に1回カンファレンスを行い、全員の入院症例についてディスカッションする機会を設けています。研修病院として研修医、学生実習を受け入れており、後輩の指導にも関わることができます。また、他の診療科、医療スタッフとも相

	談しやすい環境にあります。・週に1回カンファレンスを行い、全員の入院症例についてディスカッションする機会を設けています。研修病院として研修医、学生実習を受け入れており、後輩の指導にも関わることができます。また、他の診療科、医療スタッフとも相談しやすい環境にあります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医1名、日本循環器学会認定循環器専門医2名、日本心血管インターベンション治療学会認定専門医1名ほか
外来・入院 患者数	外来患者 14659 名・入院患者 2572 名（2024 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会専門研修関連施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設 日本東洋医学会研修施設

週間スケジュール

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前 7:00-8:30 8:30-9:00 9:00-12:00						当直担当に当たっていなければ、基本的にフリーです。 各自の判断で、病棟の患者を見に来ることもありますが、義務では	
	担当患者の回診、採血、所見のカルテ記載、指導医とdiscussion						
	朝の内科ミーティング参加						
	内科外来	救急外来	内視鏡	救急外来	生理検査室 腹部エコー		

<table>
<tr><td>午後</td><td>病棟業務</td><td>生理検査室
心エコーなど</td><td>透析当番</td><td>病棟業務</td><td>病棟業務</td><td rowspan="4">ありません。</td></tr>
<tr><td>15:00-
17:00</td><td colspan="5">担当患者の回診、指導医と discussion</td></tr>
<tr><td rowspan="2">夜</td><td></td><td>内科カンファ
17 時~19 時ごろまで</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5">担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直など</td></tr>
</table>

市立奈良病院内科専門研修プログラム管理委員会

市立奈良病院

髙橋　信行　（統括責任者，委員長，脳神経内科部長）

金政　和之　（プログラム責任者，消化器肝臓病センター長）

西尾　博至　（市立奈良病院管理者）

下川　充　（市立奈良病院院長）

児山　紀子　（呼吸器内科部長）

西谷　喜治　（腎臓内科部長）

山口　恭一　（総合診療科部長）

石神　賢一　（循環器内科部長）

川口　竜助　（救急専門研修プログラム統括責任者、救急・集中治療科部長）

弓場　有紀（研修センター）

松本　順子　（総務課）

連携施設担当委員

奈良県立医科大学附属病院	赤井　靖宏
公益社団法人天理よろづ相談所病院	八田　和大
近畿大学医学部奈良病院	花本　仁
奈良県総合医療センター	前田　光一
独立行政法人国立病院機構奈良医療センター	玉置　伸二
奈良県西和医療センター	土肥　直文
大和郡山病院	藤村　和代
国保中央病院	
土庫病院	洲脇　直己
済生会奈良病院	今井　照彦
おかたに病院	寺崎　望
京都府立医科大学附属病院	小西　英幸
大阪公立大学附属病院	細見　周平
市立東大阪医療センター	中　隆
橋本市民病院	藤田　悦生
松下記念病院	鎌田　和浩
住友病院	山本　浩司
公立丹南病院	伊藤　義幸

別表１　各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70疾患群	56疾患群 （任意選択含む）	45疾患群 （任意選択含む）	20疾患群	29症例 （外来は最大7）※3
症例数※5		200以上 （外来は最大20）	160以上 （外来は最大16）	120以上	60以上	

※１　消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること．

※２　修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする．

※３　外来症例による病歴要約の提出を７例まで認める．（全て異なる疾患群での提出が必要）

※４「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ１症例ずつ以上の病歴要約を提出する．
例）「内分泌」２例＋「代謝」１例，「内分泌」１例＋「代謝」２例

※５　初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる．